

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>ゆっくり、一緒に、楽しく、そして地域との触れ合いを。理念としている。</p>	<p>○</p> <p>地域の行事への参加や認知症ケアの専門職として地域への還元が少しでも実施出来るように。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>上記の理念を基に、取り組んでいる。</p>	<p>○</p> <p>理念がわかりやすくなった為に、新人の職員にも、すぐに共有でき、認識出来ている。元になる理念、基本方針はマニュアルとして配布している。事務所内にも、掲示して日々忘れないように、取り組みたい。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>玄関に理念、基本方針を掲示したり、見やすい理念を掲示している。広報誌にて活動の様子を掲載している。</p>	<p>○</p> <p>家族会の年2回の実施や企画への家族様や地域の方々への参加の働きかけ、などを勧めていきたい。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>近隣に民家も少ない環境であるが、1階診療所のリハビリを利用したり、2階のデイケアの企画に参加している。近隣の中学生のチャレンジ学習も共和病院と連携して実施している。</p>	<p>○</p> <p>1階の花壇の手入れを利用者様と共に作業をしながら、隣の花店にも買い物に利用して、玄関の出入りの方との触れ合いを増やしていきたい。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>自治会の一員として運動会への見学、お祭りの御神輿の巡行見学が実施できた。共和病院の主催の健康フェアに利用者様の季節の壁紙を掲示して参加できた。</p>	<p>○</p> <p>お祭りの際に来年の自治会の会長様とお会いでき、来年はお手伝いできる事を、事業所への見学も気軽にお願いしていきたい。</p>

グループホーム小野

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	母体の共和病院と連携して、健康フェアへの参加、社会福祉協議会の勉強会への参加ができた。グループホームの地域での周知活動や認知症を抱える方の側よりの専門職として、話し合いに参加。	○	年2回の小野社会福祉協議会の勉強会への参加。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	職員が改善しなければならないという、意識は持っている。	○	グループホームのカンファ、全体カンファでの報告。改善項目などをわかりやすく、揚げていきたい。
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	2か月に1回に実施しています。家族様よりの意見や助言も増えている。	○	会議参加だけではなく、現場を見てもらい問題点を指摘してもらおうなど、家族交流会への呼びかけを勧める。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	京都市の担当の方より介護計画の指導を受けた。	○	今後も不足している箇所があれば、指導をお願いしたい。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	現在はグループホームでは利用はない。	○	小野社会福祉協議会の勉強会への参加にて地域の方事例であり研修会の必要があります。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	常に職員への注意や家族様と利用者様への細やかな注意を継続	○	研修会で学ぶ必要あり

グループホーム小野

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の際に行っている。</p>	<p>○</p> <p>さらに、十分に時間をとり、努力していきたい。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者様が本人のカンファレンスに参加してもらい、希望を聞く機会をもうけている。推進会議にて参加発言もあります。苦情、相談シートにて報告。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時に情報の交換、月1回お手紙にてお知らせ、広報誌にて活動状況報告、月1回預かり金の報告、領収書の返却の実施、受診や状態の変わった場合の報告実施。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情箱の設置、年1回のアンケート、苦情、相談シートにて対応。施設長と連携、火曜会にて相談あり。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>グループホームカンファ、全体カンファにて実施。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者様の定期的受診以外の変化に応じた受診、往診依頼、家族様の要望に添ったように、努力はしている。</p>	<p>○</p> <p>管理者、ケアマネは介護職と兼務であるためにどちらの業務もおろそかにならないように、努力しないといけない。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>今年は管理者の交代があり、研修も十分でなく、不慣れであることもありますので、施設長の指導協力もへて、ダメージの少ないように努力をしています。</p>	<p>○</p> <p>新人研修も今年より担当を決め始めた。年齢の若いスタッフの育成に力をいれていきたい。</p>

グループホーム小野

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>管理者交代に伴い、研修が不足の部分に集中して、職員の育成を勧められていなかった。人員の確保と十分な年間の研修も計画も必要。</p>	<p>○</p> <p>施設内の研修、職員の研修の機会をもうけたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会の勉強会への参加交流あり勉強会への参加あり。</p>	<p>○</p> <p>今後も継続して勉強して取り組むように、していきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>親睦会などあります。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>京都市の指導も受け、アセスメントが不足の為とあり。カンファの際に事前に本人様の意向を聞く、カンファの本人様参加を出来るだけ実施。</p>	<p>○</p> <p>新規の入居者様にはセンター方式のアセスメントを実施。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>新規の入居者様にはセンター方式のアセスメントを利用して、細かな聞きとりの実施を勧めている。</p>	<p>○</p> <p>必要に応じて、面談の機会を設け家族様の都合のよい時間の設定も工夫していく。</p>

グループホーム小野

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時にケアマネ、管理者とで相談して、判定会議前に他のサービス向きの方へは、御相談させていただくように努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	面会時に本人様が来所して頂き、様子を見させてもらい、馴染めるかの判断も家族様の意見も伺いながらしている。	○	それでも、十分でなく馴染めずに退去になったケースもあり。今後の課題。すぐにでなく、レクの時の見学や短時間の見学の検討も。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	台所の食事の準備作業は共にいつまでも、職員、利用者様と話ながらの楽しい時間であり、昔の話を聞く時間となったりしている。	○	1階の花壇の手入れを利用者様と共に作業をしながら、隣の花店にも買い物に利用して、玄関の出入りの方との触れ合いを増やしていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人様の様子をお手紙にてお知らせ。本人様の今後や、現在の問題点について、相談して受診などの付き添いなどを依頼している。	○	家族交流会の参加や準備への協力の呼びかけを勧めたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	上記同様		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は時間の制限もなく、自由に来てもらえるように、支援しています。ハガキのやりとりなども。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日中のレクレーションで毎回自己紹介や本人様のお話を出来るようにしています。孤立しないように職員が関わられるようにしています。	○	外出のメンバーの組み合わせなど、考慮。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去後も家族様がホームに報告に見えたり、相談の関係となっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアマネの面談、情報の収集、介護者による気づきのボードを活用している。家族様共相談している。	○	アセスメントを増やして、十分な情報を得て本人の意向に沿うように。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様に面接時に聞き取りをしますが、馴染みの暮らしに沿えるように、時間をなるべくかけて、把握したい。	○	ケアマネを中心に多くの情報の取得の為の努力が必要。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日課表の活用、ボードにて気づきをメモに残して、変化に早く対応できるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	京都市の指導もあり、本人の希望や思いを反映するように計画の作成をしている。職員の個々の意見もボードを活用するようになってから改善している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化に応じて見直しをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は行っている。気づきや工夫はボードにて個別にメモにて、残してカンファの際に利用している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体である共和病院と連携して、体調不良時や緊急時に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議の参加、避難訓練の指導。今年はスプリンクラー工事の設置を消防署より指導もあり終了出来ました。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスとの連携はないが同施設内のデイケアへの企画の参加、居宅ケアマネとの相談などあり		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議の参加、相談、小野社会福祉協議会の勉強会への参加の実施。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の確認は必ず行っている。希望に沿ったかたちにて、対応している。		

グループホーム小野

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	共和病院の神経内科のドクターと共に連携して相談を始めたい。
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		現状ではターミナルの出来る体制はなく重度化してくる以前に相談の上特養の申し込みをさせて頂いています。別の疾患により長期の治療の必要となった場合は共和病院と連携して家族様と話し合い、本人様に1番よい方法を検討させて頂いています。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	上記同様	
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		退去時にはサマリーを利用している。電話による情報の交換もしている。聞き取りの面談にも対応している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	対応の方法は新人の研修などで学んでいますが、職員それぞれが日々注意して心がけるようにしています。個人情報については、守秘義務の誓約あり。	○ 新人の職員だけでなく、いつも継続した意識を持つための、勉強会が必要。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人様の要望を聞いたりするための、環境を整えてからの聞き取りをするなど、話しやすい雰囲気を考えないと、本人の思いをうまく聞けないこともあるので、個別にゆっくり聞くようにしています。	○ 本人の思いに沿うような支援ができるように、利用者様への理解を深める為の努力が必要。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護計画に基づいて個々の内容を把握して、その日の利用者様の状態に合わせて、対応できるように、それが本人の思いに近いものであるようにと、職員が協力している。	○ 本人の思いに近づく為には、職員の気持ちのゆとりが必要。業務を優先にしないように理念を基に支援していきます。
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の望む店の利用は行けていない。施設内の訪問のビューティヘルパーの利用をされている。他の店の利用については、家族様の協力をお願いしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	面談の際に必ず、聞き取り、食べれない物や好きなものを考慮してメニューを検討している。それぞれの出来る事をパーツにて参加してもらえるように、米とぎ、テーブル拭き、配膳、盛り付けをお願いしている。	○ 手づくりのおやつ作りや、育てたじゃがいもによるおやつなどを行っている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	スーパーの広告などで季節の食べ物やお好きなものを聞いたりして、出来るがぎり、すぐではなくても楽しめるようにしている。	

グループホーム小野

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄の状態に合わせて、汚染を少なく出来るように、声かけ、洗濯かごの設置や入浴の回数も考慮している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	朝より夕方まで入浴の準備ができています。2、3日空いている方は声かけしています。難しい場合は本人の様子を見ながら再度声かけを試みたりしています。時間も希望される時間におおむねしています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	それぞれに合わせた就寝スタイルになっています。昼間も居室にて自由に過ごされます。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	屋上に洗濯もの干し、洗濯たみ、ゴミ捨ての同行、1階の書籍の貸出しの利用、利用者様の力に応じた役割があるように、他の方とも共に出来ることを支援しています。	○	業務に追われるようにならずに、手伝いたいという、入居者様の気持ちに大切に、共に仕事を分け合いながら、助けてもらいながらの心を忘れずに、職員は仕事をする。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金にて、管理はしていますが、家族様と本人の意向により所持されている場合もあります。ただ家族様には万一なる可能性もあることへの御理解をいただいています。買い物の際は本人様にての支払いなどの援助はあります。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日などは外気浴、散歩、全員は難しいですが、希望時や不公平にならないようにバランス良くの支援を心がけています。	○	希望時にすぐに対応できない場合もあります。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	会話の中でリサーチしたりします。個別に外出は買い物が多いようです。また家族様による協力をお願いしています。		

グループホーム小野

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話に関しては、家族様の協力を得て出来る限り実施している。ただ仕事などで不在の場合もあるため、時間の制約はあります。また、手紙についても同様に。	○	年末の年賀はがきは全員に出せるように支援している。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問の時間も制約もありませんので、いつでも面会が可能です。また居室やソファなどどちらでもお話頂けます。ゆっくり話が出来るようにお茶もお出ししています。	○	訪問の際に食べ物の差し入れのある場合は他の入居者様の影響のない様に居室にて楽しんでいただける様にしています。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を開き、勉強会をグループホームの職員にて理解、認識を務めている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	エレベータの暗証番号あり。ベランダの窓が全開にならず。	○	空間的な拘束との認識はありますが、交通量の多い場所でもあり、不審者の侵入があるなど。エレベーターの解除も出来ずにいます。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	いつもと違う場合やいつもの場所におられない時には安全の確認をするようにしています。	○	職員間にて、フロアの見守りや声かけを連携しています。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	その方の現在の状態を常に把握して、見守りや職員と共になどを工夫している。今も針箱は3名は居室にてお持ちです。	○	居室にて裁縫されている場合など、職員の連携にてかたづけの確認が必要。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルあり。事故防止委員会あり。	○	施設内研修、看護職による研修、指導も必要。

グループホーム小野

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急の手当ての定期的な訓練は特にない。	○	上記同様
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練年2回あり。消防署よりの指導あり。今年にスプリンクラーの設置工事済み。	○	自治会の方にも参加を働きかけをする
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ヒヤリハットも必ず家族様の方に報告しています。対応策も家族様にさせてもらっています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化があるときは、申し送ること、必ず早めに相談して共和病院受診や施設長の指示を受けるようにしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各カルテに薬情報あり。薬置き場所に薬の内容の用紙を貼り常に確認出来るようにしています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	野菜を十分に食材として購入していろいろな形で提供出来るようにしています。水分も午前午後の2回食事3回以外にとられるようにしています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	1日朝と寝る前に声かけや誘導、介助など、その方に合わせた形でお手伝いしています。		

グループホーム小野

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	居室内にお茶を置いたり、いつでも本人の希望される時に飲めるようにしている。ご自分から飲まれる事のない方は声をかけさせています。フローアに水もあり。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染委員よりマニュアルあり。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	週1回の冷蔵庫の掃除、賞味期限については調理の担当が気をつけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	1階の玄関付近に2か所に看板を設置している。花壇の手入れを利用者様と共にして花を植えて環境を整備している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの過ごしやすいうように、席は決めていない。季節の壁紙を作る事に季節感を取り入れている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓側にソファがありテレビも置いてあります。台所にも椅子を2個設置して話が出来るようにしてあります。		

グループホーム小野

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の馴染みのタンスや冷蔵庫などを置かれて、暖簾も好みでかけられている。	○	本人の落ち着かれる工夫を家族様と相談している。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	トイレは業者の消臭剤を利用している。換気についてはママにしています。温度については温度計があり確認できます。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入浴は浴槽にて浸かれるように手すりが設置しており安全に使用できます。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	更衣の介助や台所での下ごしらえなどの介助の場合も職員は必ずいっしょに、本人様のプライドを考慮してお手伝いさせて頂いています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	屋上に外気浴や、洗濯もの干し、1階にて花を育てたり、ガレージ付近を散歩をしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

グループホーム小野

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)